

高砂市 新たな学校づくり通信

～こどもたちに最適な教育環境を提供するために～

vol.

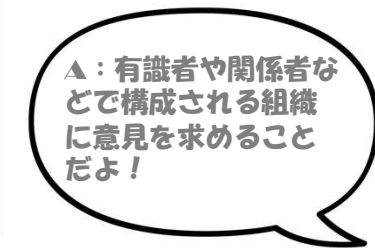
04

■『第2回高砂市新たな学校づくり推進審議会』を開催しました！

令和7年2月に「第2回高砂市新たな学校づくり推進審議会」を開催し、教育委員会から審議会へ“諮問”をしました。

第2回では、詳細な将来推計結果に基づき将来の児童生徒数・学級数について確認するとともに、通学区域の状況、施設状況、特別支援教育や不登校支援の状況などについて確認し、意見交換をしました。

開催日時	令和7年2月12日(水)19時00分から
開催場所	高砂市役所南庁舎5階大会議室
出席者	15名(会長 押田 貴久) うち14名出席
傍聴人数	0名
審議内容	1. アンケート調査(令和6年11月実施)結果について 2. 高砂市立学校の現状と課題について 3. 基本方針及び推進計画策定のなぐれ 4. 市民説明会の開催について



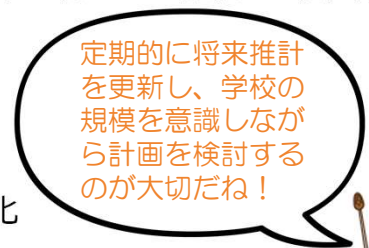
■高砂市立学校の現状と課題について

○児童生徒数・学級数の将来推計について

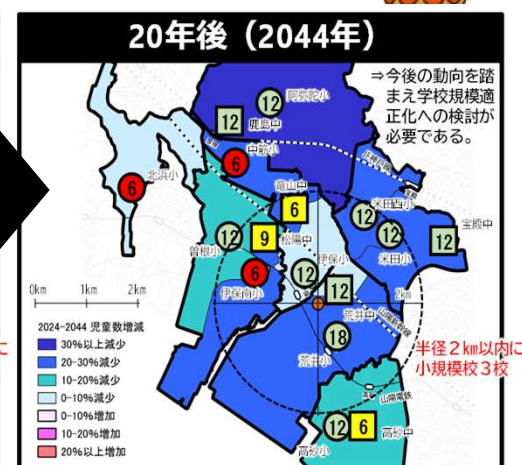
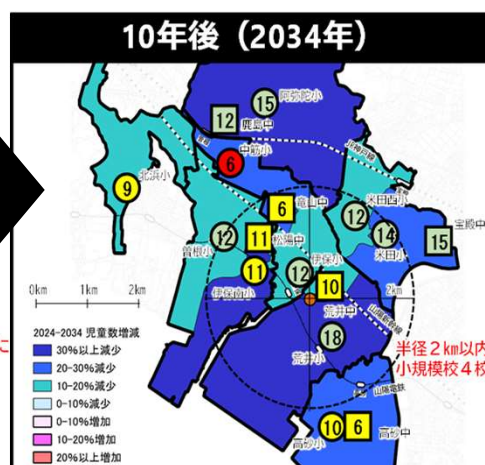
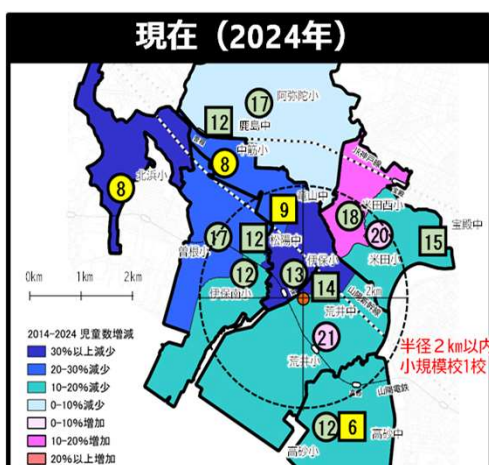
左側の地図は令和6年現在で、荒井小学校と米田小学校の2校が19学級以上、高砂中学校・竜山中学校・中筋小学校・北浜小学校の4校で小規模校化が始まっています。中筋小学校と北浜小学校は、現在すでに単学級の学年があります。

「10年後」は、小学校では19学級以上の学校がなくなり、全学年で単学級の6学級校が1校出現します。中学校は、4校で11学級以下となるなど、小学校・中学校ともに、特に中央部で小規模校化が進み、今後10年で大きく変化します。

「20年後」は、その状況がさらに拡大し、小学校では全学年で単学級の6学級校が3校に増えるほか、その他の学校もぎりぎりクラス替えができる12学級校が増加するなど、市内全域で小規模校化が拡大します。



<高砂市立小中学校の学級数の将来予測>



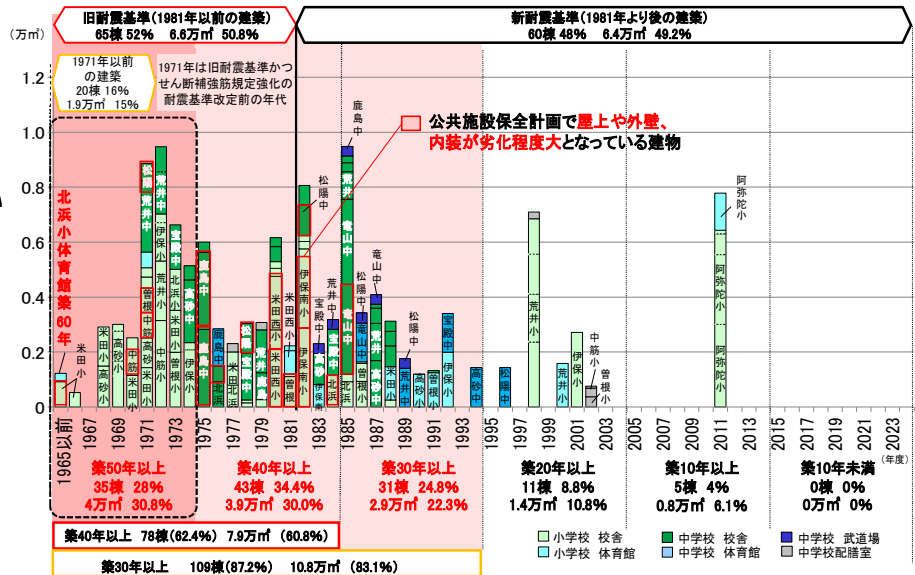
○ 施設の状況について

高砂市の公立小中学校16校の延床面積は約13万㎡で、その約61%、約7.9万㎡の建物が建築後40年を経過しています。

これらの建物は建替えや長寿命化改修をしなければならない時期を迎えています。

なお、長寿命化改修とは老朽化した建物の耐久性を高めるとともに、機能や性能を現在の学校が求められる水準まで引き上げることで、将来にわたって長く使用できるようにするための改修を言います。一般的に建築後40年前後で必要と言われています。

<築年別整備状況>



■ 主な意見

1. アンケート調査結果について

- 属性によって適正規模に対する認識が違っていた。また、学校の規模別に意見がどう違うのかが分かればもっと議論ができると思う。
- アンケート調査に回答した方は危機感を持ったと思うし、施設の老朽化や不登校対策などの様々な課題があるため、早めに広報活動をして進めていかなければいけないと思う。
- 自分たちが働く職場に関することなのに、約76%の教職員等しか回答していないのは大きな問題だと思う。
- 属性によって考え方が違うため、統廃合や建物の改修をする際にも意見が分かれると思う。

2. 高砂市立学校の現状と課題について

- 全ての学校で改修等が必要な危機的な状況であり、20年後には適正規模を保てる学校がほぼないため、財政状況と併せて施設整備を考えないといけない。
- 統廃合を考えつつも、今ある学校の安全性の確保も大事だと思う。ただ、修繕に費用を使って綺麗になっても、すぐ統廃合となると費用の使い道に不満が出ると思う。
- こどものことを第一に考えた新たな学校づくりを考えないといけないと思う。子どもたちが1日の3分の1を過ごす場なので、早急に安全面を確保していただきたい。
- 学校を統廃合する際、保護者としては通学時間や距離、安全性の確保が心配だと思う。
- 全小中学校のバリアフリー化を進め、誰もが自分の育った地域の学校に行けるように整備することが必要だと思う。

詳しい内容は
ホームページで
チェックしてね！

■ 今後の予定

第3回審議会

日 時： 令和7年5月26日(月)19時00分から
場 所： 高砂市役所分庁舎1階大会議室

第2回審議会

